

令和 7 年度 自己点検・自己評価結果

目 次

(1)	教育理念・目標.....	1
(2)	学校運営.....	3
(3)	教育活動 作業療法学科.....	5
	理学療法学科.....	7
	看護学科.....	9
	助産学科.....	11
	看護学科通信課程.....	13
	歯科衛生学科.....	15
(4)	学修成果 作業療法学科.....	17
	理学療法学科.....	19
	看護学科.....	20
	助産学科.....	21
	看護学科通信課程.....	22
	歯科衛生学科.....	23
(5)	学生支援.....	24
(6)	教育環境.....	26
(7)	学生の受入れ募集.....	27
(8)	財務.....	29
(9)	法令等の遵守.....	30
(10)	社会貢献・地域貢献.....	31

令和 7 年度自己点検・自己評価報告書作成に際して

1. 評価担当

①教育理念・目的	校長
②学校運営	校長
③教育活動	各学科教務
④学修成果	各学科教務
⑤学生支援	学生サポートセンター
⑥教育環境	総務課
⑦学生の受入れ募集	広報部
⑧財務	経理課
⑨法令等の遵守	法人本部
⑩社会貢献・地域貢献	学生サポートセンター

2. 評価数値の意味

- 4 … 適切に対応している。
課題の発見に積極的で今後さらに向上させるための意欲がある。
- 3 … ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
- 2 … 対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取組む必要がある。
- 1 … 全く対応をしておらず不適切。学校（学科）の方針から見直す必要がある。

(1) 教育理念・目標

Q	評価項目	評価
1	学校の理念、目的、育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
2	学校における職業教育の特色は何か（理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか）	3
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
4	各学校の教育、目的、育成人材像、特色、将来構想などが学生、保護者等に周知されているか	4
5	各学校の教育目標、育成人材像は、学校等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【評価に対する根拠（令和7年度の取り組みと状況など）】

1. 本校の建学の精神のもと、教育理念・教育目的・教育目標を定めており、医療福祉において社会のニーズに対応できる人材の育成を目指している。また、医療人として求められる専門の知識・技術の教育は勿論、豊かな教養と感性、人間性、社会貢献への使命感を育むことに努めている。
2. 多様な医療職に関する学科を設置しているという特色を活かし、IPE（多職種連携教育）に取り組んでいる。
3. 高校生・社会人に選ばれる専門学校、福祉・医療施設から選ばれる福祉・医療人を輩出する専門学校となることを目指して教育の質の向上に取り組んでいる。また、法人全体の中期ビジョンとそれに基づく単年度の運営目標・計画を定めている。また、ビジョン発表会を実施する事により職員間で共通理解を図っている。
4. 本校の教育理念及び各学科の教育目標・教育内容を本校のホームページやSNSで分かりやすく公開している。また、オープンキャンパスや進学説明会などあらゆる機会に説明している。
5. 関連業界・実習施設等から選出された外部委員を交えた評議員会、教育課程委員会や、実習施設訪問等の機会を通じて得られる意見・情報をもとに方向付け及び見直しを行っている。

【課題】

- 医療関係の各職種において人材の確保が求められているが、高校生の減少傾向が顕著である。
- 高校生・社会人に選ばれる学校になり、医療施設から期待される人材を輩出することで、地域で信頼される学校となることを目指す。
- 医療分野での人材確保という原点に立ち返って、きめ細やかな教育を施せる環境、教育体制を確立していく。
- 各学科の教育目的や内容を県内外の他校と差別化を図り特色を明確にすること。

【改善方策等】

- 第二期中期ビジョンで示した「活躍できる人材を社会に輩出することを目指し、学生一人ひとりに寄り添い、将来の仲間として育てるために、教職員が一丸となって取り組む」というミッションを自覚し、具体の各ビジョンの実現を図る。
- 本校の教育活動の大きな特色である「多職種連携教育（IPE）」の内容を充実させ、意義や成果を校

外へ積極的に発信していく。

○学生・保護者に対し、新入生オリエンテーション、MO 後援会、学生や保護者との面談など、あらゆる機会に学校のビジョンや運営方針について周知・理解を図る。

○高等学校、医療関係施設、行政機関等を訪問し、社会の趨勢、学校へのニーズと要望、諸機関との連携の在り方等の把握を図り、絶えず学校の在り方や方向性を見直す。

○時代の変遷を読み取り、各学科の特色化・差別化が図れるように教育内容を見直す。

(2) 学校運営

Q	評価項目	評価
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
4	人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
5	教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
7	教育活動等に関する情報公開は適切になされているか	4
8	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【評価に対する根拠（令和7年度の取り組みと状況など）】

1. 毎月開催される経営会議・運営会議において、ビジョンの実現や学校運営に関する課題について審議し、その意志に基づいて学校の運営がなされている。
2. 当年度の事業計画は、学則に定めた学校の目的及びそれを達成するための教育目標に基づくものを精査し理事会・評議員会の承認を得ている。
3. 本校の組織運営及び管理は、法人の理事会・評議会のもと、運営会議を議決機関とし意思決定を行っている。また本校の校務分掌組織は規則等において明記されている。
4. 法人本部が所管しており、基準や手続き等を整備して適切に実施している。また、2019年度より人事考課制度を実施し、組織の活性化を目指した人事考課の機能がより高まってきている。
5. 意思決定のプロセスと仕組みは制度化されており、組織図及び校務分掌によって業務範囲が示されている。また、各学科では教務会議を開催し、学科内役割分担を適切に行い運営に当たっている。
6. 専修学校設置基準及び養成施設指定規則を遵守し運営している。学生サポートセンターと統括部長、学科長との連携によってコンプライアンス維持体制を構築している。
また、危機管理体制の強化を図るため、ヒヤリハット事例の収集を行うとともに、随時、危機管理マニュアルの見直しを行っている。
7. 学校のホームページ及びSNSにて、本校の教育活動・運営状況等を社会に対して広く公開している。
8. 学内の情報共有、伝達は、グループウェアの活用により促進しており利便性の向上が見られる。学生関係の情報（学籍に関する情報、成績に関する情報など）の一元管理が求められる。

【課題】

○学生・保護者・関係施設病院・行政機関等にきめ細やかで誠意ある対応を心がけ、本校への信頼、期待、支援に繋げていくこと。

○共通でありながら学科毎に個別に行っている事務や情報処理について学校全体での共通化を図り、業務の一層の効率化を図ること。

【改善方策等】

- 職員が意欲をもって働き、能力を高めることができ、働き甲斐のある職場になるように、人事考課制度を実践する。
- 各職員が第二期ビジョンに沿ったクレド（価値観や行動規範）を持ち、具体的な目標の実現を図る。
- グループウェアの機能をさらに活用し、業務の効率化、軽減化を図ることで、職員が学生の教育やサポートに携われる時間を十分に確保する。
- 学生情報のデータベース化を進め、業務の効率化、情報活用の利便性の向上、セキュリティーの強化を図る。
- 教員のアカデミックキャリアラダーに基づいた取り組みを促進する。また、教員研修を体系化し、キャリアに応じた研修を充実させる。
- 人工知能（AI）を教育力の向上や業務の効率化に活用すること。そのための組織としての利用機会の検討を行い、職員研修などを通じて実践を図る。

(3) 教育活動 作業療法学科

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

【評価に対する根拠（令和7年度の取り組みと状況など）】

- 教育課程の編成、実施方針は、学校養成施設指定規則を遵守し、養成施設指導ガイドラインに沿って策定している。理念に基づいた作業療法学科の特徴をカリキュラムに反映させ実践している。
- 学校養成施設指定規則ならびに養成施設指導ガイドラインに基づき、教育の目標・理念を掲げ、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーにて方針を明確に示している。高度専門士に必要な 3,400 時間を超える学習時間を確保している。
- 学校養成施設指定規則に沿って、作業療法学科の特徴を反映させ、段階的かつ体系的に編成している。授業科目一覧、カリキュラム・マップ、シラバスに単位数、科目の分類、授業目標を示している。
5. 教育課程編成委員会、臨床実習指導者会議、実習地訪問など臨床教育者からのフィードバックを活かし、業界の動向を適宜把握し、学生のキャリア形成を育むためのカリキュラムや教育方法を検討する学科会議を定期的に開催した。
- 学外実習として3年次に評価実習、4年次に臨床実習を実施している。

7. 学生対象の授業アンケートを年 2 回実施している。アンケート結果は教員にフィードバックされており、授業の質を上げるための学科会議を定期的で開催している。また、学内教員間での授業参観を通して、相互評価を実施している。
8. リハビリテーション教育評価機構、学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会等の評価を学科運営と職業教育に取り入れている。
9. 学習の手引きの学則・細則ならびにシラバスの成績評価方法に基準を明記している。
10. 資格取得に向けた科目「基礎知識の統合」を開設し、受験対策授業や模擬試験等を計画的に実施した。担当制を導入し、教員と学生個別または小グループでスケジュール管理や苦手分野の抽出、学習方法などのサポートを実施した。また、学校冬期休業中に教室を一部開放し、教員が分担出勤してサポートしながら、国家試験対策を行った。
11. 5 年以上の臨床経験ならびに、養成施設等教員講習会および臨床実習指導者講習会を修了しており、教員としての要件を満たしている。学科内教員で人材育成目標の達成に向けて、カリキュラムや教育方法を検討する会議などを通し、連携・協力体制を構築している。
12. 日本作業療法士協会や栃木県作業療法士会などの職能団体と連携をしている。
13. 日本作業療法士協会や栃木県作業療法士会などの職能団体主催の専門分野の研修会で自己研鑽をしている。
14. 法人のアカデミックキャリアラダーを用いて教員を 4 段階に分けている。段階に応じた研修を学内外の講師に依頼して実施している。

【課題】

臨床実習および国家試験は、学生の学修成果を学外から客観的に評価される機会であり、専門職養成教育において重要な位置づけとなっている。近年は、学生の学習歴や基礎学力、学習習慣の多様化が進んでおり、個々の状況に応じた教育支援体制の充実が求められている。

【改善方策等】

CCS（クリニカルクラークシップ・診療参加型実習）および国家試験を見据え、知識・技術・態度に関する到達目標を整理し、教育課程との整合性を図る。また、授業内容、試験問題、模擬試験等について段階的な学修プロセスを意識した運用を行い、学生の学修状況を早期に把握・支援できる体制を強化する。さらに、臨床実習指導者等の外部意見を取り入れながら、OSCE（客観的臨床能力試験）の内容および評価方法の改善を継続的に行い、教育の質向上に努める。

(3) 教育活動 理学療法学科

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

【評価に対する根拠（令和7年度の取り組みと状況など）】

1. 教育課程編成委員会および指定規則に基づき策定されている。
2. 学習の手引、シラバスに明記されている。
3. 指定規則に基づき編成されている。令和8年度に向け新たなカリキュラム編成を行った。
4. 職業実践として学外実習が設定されており、適切に指導者へフィードバックされている。
5. 学外実習に伴い、実習指導者と意見交換し実施されている。
6. 学外実習が実施（3・4年次）されている。
7. すべての教科でアンケートが実施されている。
8. リハビリテーション教育評価機構の評価を受けている（2023年度に評価を実施し2024～2028にかけての認証を受けた）。
9. 学習の手引、シラバスに明記されている。
10. 授業において国家試験に対応したコアカリキュラムに基づく編成がされている。
11. 要件を備えた教員を確保している。
12. 関連分野の職能団体と関連の深い教員を確保している。
13. 教員には研修日が設けられている。
14. キャリアラダーに基づく実施が予定されている。

【課題】

定員数の増加とそれに伴う新入生 40 名を迎えるにあたり、環境の整備だけでなく、運用についても新たな対応が必要になっている。学科間の非対称性や今後の問題として実習の体制なども、人数が増えたことによる対応を、将来（直近でいえば 4 年間）を見通して行うことが必要である。
人数が増えて、教育の質が下がることが無いような対応が課題である。

【改善方策等】

令和 8 年度より新たなカリキュラムに基づいて要請する。単位数と科目および開始時期の見直しを行い、個別対応の時間を捻出できるような編成とした。専門科目の早期からの取り組みや、専任教員が関わる授業内容の構成を行った。また学習や練習に用いる教室の数を拡大し、1 号館に座学と実技の教室を新たに設けた。これによって学習環境が数的に乏しくなることはなくなったと思われる。
教育機材においても、従来のプロジェクターから大型 TV モニターに変更することで、視認性を高めるとともに準備までの調整時間を短縮することが可能となっている。
今後は新旧のカリキュラムが混在する数年間となるが、事前に各講師には状況を伝達しており、今後は適宜対応していく予定である。

(3) 教育活動 看護学科

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	3
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

【評価に対する根拠（令和7年度の取り組みと状況など）】

1. 教育課程は指定規則を遵守し、指導要領に沿って策定している。教育理念に基づき看護学科のカリキュラムに反映し、実践している。また、実施も明確に策定し運用している。
2. 指定規則および「看護師養成所運営に関するガイドライン」における「看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度」を参考指標としてアドミッションポリシー、ディプロマポリシーを策定し運用している。また、3年間の修業年限で完結できるように学習時間の確保をしている。
3. 「看護師養成所運営に関するガイドライン」に沿って、カリキュラムは体系的、段階的に編成され1～5の教育目標が達成できるようにしている。
4. 例年通りの授業や実習を展開できた。しかし、学生の意欲やレディネスに応じた展開が一部できず、課題が残った。
5. 実習施設、県内外大学との連携は講師派遣や臨床講義、実習依頼、教育課程編成委員会での交流会や情報交換などで、意見をいただいている。カリキュラム反映や学生指導に活かすことができるように努めている。
6. 教育課程に基づき、実習を段階的に配置するなど体系的に実施している。令和7年度もほとんどの所でインターンシップを経験でき就職活動につながった。

7. 全科目の学科試験、レポート評価、実技評価、評価表による評価など多様な評価としている。
授業アンケートから課題を講師に返し改善して頂いている。また、講師選定の参考にしている。教員に関しても個々に結果を踏まえて授業案の工夫に活かしている。
8. 実習病院等の外部関係者から例年同様、対象者とのコミュニケーション、対象者やスタッフとの人間関係構築に課題があると報告を受けている。カリキュラムで、課題を克服できるよう組み立てた結果、新カリキュラムの卒業生における1年目の離職報告は受けておらず、職場に適応出来ていると考える。
また、教職員から在学時に発信を強化し、早期に人間関係を構築できるようにしている。
9. 成績評価、単位認定、進級、卒業判定は学則及び学科細則に基づき会議で適正に判定している。
全科目の評価方法について確認し、シラバスに明記している。
10. 国家資格取得のため、授業計画も出題基準に応じた組み立てをしている。また、1年次から一貫した指導体制で補習講義、模擬試験、外部ゼミなど定期的実施している。また、全学生が意識する働きかけを行っている。その他、学生1人ひとりの学力面・メンタル面のサポートを担当中心に行っている。
11. 令和7年度も教職員の退職はなかったが、体調不良で2名程業務遂行が不十分であった。そのため、他の教員の負担が多くなり、滞るところもあった。
12. 実習指導は施設と密な連絡をとり、連携強化に努めていることで、協力が得られている。講義に関しても講師を派遣していただき、医療現場の実態に即した教育をお願いしている。
13. 14. 県看護系教員協議会の学生指導、授業案研修、専門領域研究へ参加、オンライン研修で教育方法、教職員会議で学生指導のあり方など討議を繰り返し、教育力向上に努めた。徐々に現在の学生状況に合わせた、講義・実習、生活指導などできてきている。

【課題】

- ・教員2名が体調不良で他教員に負荷がかかり、不満が出たこともあったが、協力して乗り越えることができた。このことで組織体制として予備力の低さなど脆弱な部分が明らかになった。
- ・令和8年度に向けてオープンキャンパス担当者を専従、また、AO入試を随時にしたことで入学者数の増加に繋がった。今後も入学者数のさらなる増員に向け、効果的な対策法を継続して検討・実施していく。

【改善方策等】

- ・教員の欠員を想定して、全教員が全領域担当できるよう、3,4年ごとに交代し、学科・実習をカバーできるようにしていく。研修等に積極的に参加し、学生指導・クラス運営等ブラッシュアップしていく。
- ・令和8年度も引き続き、オープンキャンパス担当専従と内容の精選を実施、AO入試選抜の充実広報担当、全教員で関り増員を目指す。

(3) 教育活動 助産学科

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

【評価に対する根拠（令和7年度の取り組みと状況など）】

- 教育課程は指定規則を遵守し、指導要領に沿って策定している。「そばにおいてもらえる助産師」というフレーズを前面に出したことで統一感のある教育課程になっている。
- 「看護師等養成所の運営に関するガイドライン」における「助産師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度」、また全国助産師教育協議会の示す「ミニマムリクワイアメンツ」を到達レベルの参考指標としている。また、卒業時に求められるレベルを学生にも到達目標として示し、1年間の修業期間の中で効率的に学べるよう工夫している。
- 本校の教育理念、助産学科の教育に関する基本的考え方に基づき系統的な教育課程を編成している。シラバスにより科目ごとの学習目標や位置づけを明確にし、1年間の修業期間により効果的な学習ができるよう心掛けている。
- プレ助産学講座の実施により、母性看護学の重要事項を精選し、図示、用語の意味の確認、ワークシート作成、協同学習などを取り入れ助産学への接続を図っている。
令和6年度より、「助産過程の展開」科目を基幹に、各期別の科目においても例示や診断ありきの思考の流れを繰り返し訓練している。臨床からは実習始期から短時間での展開ができていると評価を受け、学生からも、「学内での訓練が活かして、学内から臨地へのスライドが円滑だった」と手応えがある。
- 年2回開催する臨地実習指導者会議で、本校の教育課程について説明し、意見交換を行っている。また、実習期間内や終了後も施設との対話を行いながら、実習施設ごとの機能や特性を踏まえ、画一

的ではなく柔軟に、共に実習をデザインすることで意識の統一を図っている。

6. 実習開始前には思考判断と技術の統合を図るべく総合試験を実施することで、各人の到達レベルを保証し、臨地での実施の前提を整えた。また、実習においては学生が担当する分娩介助件数が減少する中で、教員とのリフレクションを実施し、1例からの学びを広げ深化させられるよう心掛けた。
7. 学校全体で実施する授業アンケートを実施しすべての科目の評価を受けた。結果については学科内で回覧し、課題の共有を図っている。
8. 臨地実習終了時には、実習指導に関するアンケートを実施し、準備、実習内容、教員との連携等について確認を行い、修正が必要な場合は対応している。
9. 成績評価・単位認定に関しては、看護師養成所指定規則及び本校学則に基づき厳正に実施している。全科目の評価方法について点検し、シラバスに明記している。
10. 資格取得支援については、過去の結果を踏まえ、入学直後から具体的なガイダンスを行い、年間計画を立案して取り組んだ。学生個々の特性を早期に把握し、課題のある学生については、関係を維持しながら支援が受け入れられるよう担当制や、時機を見た介入を行った。
11. 教員間の関係を良好に保ち、やりがいをもって職務に当たれる組織づくりと、離職防止に努めている。役割については円滑な業務遂行を維持できるよう分掌している。常勤・非常勤職員を含め第一線で活躍する人材を講師として確保できるよう努めている。
12. 関連団体（栃木県看護協会、栃木県助産師会、全国助産師教育協議会、助産師学校教務主任会議）と連携し、情報収集や人脈の拡大に努めている。
- 13.14. 研修には積極的に参画している。また、新人教員の教員への適応や教育実践については、本校独自のアカデミックキャリアラダーを用いて、定着と成長を目指したサポートを心掛けている。

【課題】

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">① 実習と資格対策の近接化② 入学する学生の変化の察知と対応 |
|---|

【改善方策等】

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">① 実習中にも資格取得対策ができるよう、入学時に対策ファイルを作成。実習開始までに問題集を配布し、経験した項目を適時に定着できるツールとしての使用を進める。② 1年間というスピードの中で、学生の不安や戸惑いを見逃さないよう、学生の反応を見ながらプログラムを進めていく。（学生が置き去りにならない段階設定など、今まで行っていなかったことも必要時実施する。） |
|--|

(3) 教育活動 看護学科通信課程

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

【評価に対する根拠（令和7年度の取り組みと状況など）】

1. 教育課程は指定規則及び指導要領を遵守しており、教育理念に沿った内容になっている。看護学科通信課程の特徴を加味した上で体系的に編成できている。
2. 指定規則および「看護師養成所運営に関するガイドライン」における「看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度」を参考指標としている。また、2年間の修業年限で完結できるように学習時間の確保をしている。
3. 「看護師養成所運営に関するガイドライン」に沿って、カリキュラムを体系的に編成し、教育目標が達成できるように構成している。
4. 学生は、准看護師としての7年以上のキャリアを積んでおり、看護技術はすでに修得している。しかし、准看護師教育においては「科学的思考」「根拠」が十分でないため、その部分が強化できるように実施している。
5. 実習指導者会議や添削教員会議にて情報共有を行い、カリキュラムへの反映や学生指導に活かしている。見学実習だけでなく、臨地での知識を授業にも取り入れるように努めている。また、臨地実習Ⅰ（紙

上事例演習)と臨地実習Ⅱ(施設見学実習)を関連付けて学びが深まるように、実習施設に臨地実習Ⅰの内容一覧を提示し、実習内容の調整を依頼している。

6. 教育課程に基づき、体系的に実施している。実習指導者会議において、学習効果の高い実習となるように実習要項を見直し、実習協力施設との意見交換をした上で臨地実習を実施している。学生が仕事や家庭の両立ができるように計画し、実施している。

7. 前年度より学校全体で実施する授業アンケートをもとに、通信課程であることを踏まえた項目を設定し、アンケートを実施している。アンケート結果を今後の教育活動に活かしている。

8. 実習協力施設と年1回以上は実習指導者会議を開催し、意見交換を行っている。添削教員会議も年1回実施しており、各領域での打合せも行っている。メールやLINEも活用し、意見交換がしやすい環境づくりに力を入れている。

9. 成績評価、単位認定、進級、卒業判定は学則及び学科細則に基づき会議で適正に判定している。全科目の評価方法について点検を行い、シラバスに明記している。また、臨地実習の評価についてはルーブリック評価表を点検し、よりの確に評価できるようにしている。

10. カリキュラムの中で国家試験も意識した課題集等を作成し、学習効果の向上に努めた。資格取得支援については、入学当初より説明を行い、年間計画を立案して取り組んだ。月1～2日のデイゼミ・ナイトゼミを含めたオンラインによる国試対策や1・2年生ともに会場模試を行った。学生個々の特性の早期把握に努め、課題のある学生については個々の課題に合わせて介入方法を検討し、実施した。

11. 人材育成目標を学科内で理解を深め、カリキュラムへ反映しながら授業を行っている。また、学科内の教職員が協力し合い、人材育成目標の達成を目指している。

12. 全国通信制看護学校協議会や栃木県はもちろん近隣の県の看護協会等と連携を強化している。臨地実習Ⅰについては添削教員の経験を活かした指導を依頼している。

13. 14. 看護学科通信課程の教育活動に活かせる内容の研修を中心に、学内外の研修について積極的に参加している。教員間で情報共有し、各教員の指導力・資質の向上や能力開発に努めている。

【課題】

・より医療現場の実態に即した教育力の向上

【改善方策等】

・外部関係者との協力関係をさらに強化する

(3) 教育活動 歯科衛生学科

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか。	4
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

【評価に対する根拠（令和7年度の取り組みと状況など）】

1. 教育課程は厚生労働省の指定規則に則り、指導要領に沿って策定されている。また、変化する社会のニーズに対応しつつ、教育理念に基づき実践している。
2. 「歯科衛生学教育コアカリキュラム～教育内容ガイドライン～」に沿って、修業年数に応じた到達目標が定められ、教育理念や社会のニーズに合わせた授業時間数と単位数を設定している。
3. 各学年に明確な到達目標があり、年次ごとに基礎系から、臨床系、そして3年間を通じて主要3科を学ぶ体制ができている。カリキュラムは教育課程編成委員会を開催した際に精査され歯科衛生士としての必要な知識・技能を修得できるものになっている。
4. 歯科医院のみならず、小山市が主催する2歳児歯科検診、市内3カ所での小中学校での歯科検診やブラッシング指導、保育園児への口腔衛生指導、また、高齢者施設にも口腔ケアの実習を取り入れている。大学病院実習も2週間にわたり、実施することができた。
5. 歯科のメーカーによるセミナーを各学年実施した。「審美歯科」に関する事や「口腔機能低下症」に関するセミナーでは、最新の知識と器具機材に触れることができた。職域団体の栃木県歯科衛生士会と綿

密に連携を取り、講話をお願いし、学生に帰属意識を持たせることができた。

6. 臨地臨床実習は歯科診療所をはじめ、県内 2 カ所の大学病院や小山市の歯科検診、小中学校のブラッシング教室や学校歯科検診、介護施設実習と幅広く行われている。教員は期間中に巡回指導し実習指導者と連携し意見交換をする事で、学生にフィードバックする仕組みができています。

7. 定期試験前に各教科の授業アンケートを行い、学生からの評価を受けている。結果は学科内で共有し授業の改善に努めている。

8. 実習施設を巡回した際に指導者から学生の評価と同時に、学校での指導の内容等もご意見をいただいている。教育課程編成委員会は年度内に 2 回開催し、委員からの評価を受け、改善に努めている。

9. 各教科のシラバスや学則ならびに歯科衛生学科の細則に基づき、判定基準は明確になっている。判定に関しては成績資料を基に、卒業認定会議、単位判定会議を開き、学校長の認定を受けている。

10. 資格取得に向け、国家試験対策として年次ごとに目標を決め、年間計画に沿って効果的に学習を進めている。傾向の違う 3 社の業者模試と外部講師の講座も取り入れ国家試験対策としている。教員も学生に合わせた学習方法で国家試験合格へと導いている。

11. 専任教員については厚生労働省の要件を満たす教員を配している。また、歯科医師会から派遣いただいている非常勤講師は実践で活躍されている人材となっている。

12. 地元歯科医師会や栃木県歯科衛生士会と連携し、臨床に即した最新の情報や歯科の技術を取り入れている。実習施設や、大学病院からも講師を派遣していただき、講義をしていただき知識の習得に努めている。

13. 14 今後は外部の研修にも積極的な参加を促すようにする。教員間で実習の補助に入り、お互いの授業を見る機会は多いが、研修の場は作ることができず今後の課題である。

【課題】

学生指導に関して、学生が納得した形での指導ができずにいるので、学生に行動変容が見られずに同じことを繰り返している状態である。学生の特性や生活習慣を細かく把握し、指導に繋げていく。
教員の資質の向上について、授業力のアップが必要であると考えます。

【改善方策等】

学生の特性に関しては、必要に応じて面談をしながら、学生の特性を把握し根気よく指導していく。多様化が当たり前のようになってくることを理解する。
教員の更なる資質の向上を目指すにあたり、研究授業の計画を立て、年間を通して実施していく。

(4) 学修成果 作業療法学科

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	3
3	退学率の低減が図られているか	3
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

【評価に対する根拠（令和 7 年度の取り組みと状況など）】

1. 学生個々の強みを活かせるよう、本人・学生サポートセンター職員・学科教員と連携し、就職率 100% を維持している。
2. 令和 7 年度より、①教員担当制、②模擬試験の目標点数の提示、③成績によるクラス判定基準作成、④成績による学習方法の設定を導入した。模擬試験の回を重ねるごとに成績は上昇傾向にあったが、合格点に届かなかった者もいたため、評価を 3 とする。
3. 年 5 回程度の個別面談を行い、全学生サポートミーティングで一人ひとりの現状把握や個別のサポート方法などの課題を教員で共有した。成績下位層など退学ハイリスク学生への個別・小グループでの学習計画や課題のサポートを重点的に行った結果、退学者数を少なく抑えることができた。退学者数は令和 6 年度と同じであるが、ハイリスク学生を進級・卒業できるようサポートできたため、評価を 3 とする。
4. 卒業生を中心とした勉強会や実習施設への訪問、職能団体の集まりなどを通して、卒業生の状況を把握している。
5. 設問 4 の活動から得られる情報を教育活動の改善に活用している。卒業生に授業依頼し、在校生との関わりもできている。また、令和 5 年度卒業生に対し実施した在学中の学修についてアンケート結果を学科運営ならびに授業運営に活かしている。

【課題】

資格取得率の向上に向けて、国家試験合格率 100% を目標とした体系的な学習支援体制を構築する必要がある。また、退学率低減に向けては、成績下位層への支援のみならず、全学生を対象とした継続的かつ段階的な学習支援体制を整備し、学力向上を図る必要がある。

【改善方策等】

令和 7 年度は、成績下位層の学生に対する重点的な学習支援を実施した結果、一定の成果が見られた。一方で、成績上位層および中間層に対する支援が相対的に不足する課題も明らかとなった。今後は、小テスト、定期試験、国家試験模擬試験の実施時期や実施方法を見直し、学生の理解度や学習状況を早期に把握できる

体制を整備する。加えて、成績下位層への個別支援を継続するとともに、成績上位層・中間層の学習意欲や満足度の向上につながる支援方法についても検討を進める。さらに、本年度入学生より導入した新カリキュラムにおいては、1年次から国家試験および臨床実習を意識した授業運営や試験問題作成を実施する。早期から計画的な学習準備期間を確保し、専門職として必要な基礎知識・技術・態度を段階的かつ確実に修得できる教育体制の構築を推進する。

(4) 学修成果 理学療法学科

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	4
3	退学率の低減が図られているか	4
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校のエデュケーションの改善に活用されているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【評価に対する根拠（令和7年度の取り組みと状況など）】

1. 就職率に問題はない。
2. 資格取得率の向上に向けた対応は図られており、卒後の学生とも定期的な連絡が学校側から行われている。
3. 退学率にかかわる学業成績、生活習慣への対応が、学生個人レベルで実施されている。適切な進路に関するアドバイスも含め、対応はされている。特に令和7年度は学習の納め方に問題のある学生に対して、家族を交えた三者面談を実施して、多方向から学生への支援を行っている。
4. 実習および職能団体の集まりにより、卒業生の状況を把握できている。
5. 現状では十分に活用されていると思われる。在校生と卒業生の授業による関わりもできている。

【課題】

退学率への対応は引き続き必要であり、特に定員が増えたことにより危惧されるのは学生の連鎖的なモチベーション低下である。本校入学までの教育体制は目標到達までの過程にあまりストレスをかけない形で行われてきたことが多く、成すことよりも行うことに重点が置かれてきた傾向があり、本過程のように明確な目標達成を求める学習体制に移行できないこともある。

段階的に、学校内で目標達成を意識した自律的な行動を行うことができるよう、基本的な体制を敷く必要がある。

【改善方策等】

令和8年の基本的な教育体制として「三育：知育・徳育・体育」を掲げ、特に体育的な観点を重視した教示を行う。90分間の授業を十分に受け止められるように、加えて職業的耐性のトレーニングとして具体的に「授業中は起きている」「水分補給は休み時間のみで机の上に学習に必要なもの以外置かない」「姿勢を保つ」「排泄は休み時間に済ます」などを提示している。

行動変容をきっかけとして、ふさわしい知識の選択を行うことができるように「知育」と「徳育」を進めていく流れを基本的な方針として明示し実施している。

(4) 学修成果 看護学科

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	2
3	退学率の低減が図られているか	3
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【評価に対する根拠（令和7年度の取り組みと状況など）】

1. 就職ガイダンスや早目の活動で国試不合格者を除いて就職している。実習病院への就職を推奨しているが、昨年同様減少している。大学病院への就職は昨年と同数である。県外の就職は例年同様の比率で埼玉が多く、他、東京・神奈川・群馬・茨城に就職している。
2. 3学年に対し、担任以外の教員が個人担当制で教授、メンタルフォロー、学内補講を追加した。
3. 学生から不安の相談を受け、励ますなど、丁寧に関わったが、出席不良、学業不良から単位未修得となったことで、退学者が出てしまった。
4. 実習病院での卒業生・在校生の評価はおおむね良好であり、離職は少なくなっている。教員が実習引率で卒業生に会う時があり、その時は意欲的に働いている人が多い。
5. 上記4の評価からカリキュラムデザインや病院実習の展開に活用している。

【課題】

今までの反省を踏まえ、夜間もホールや演習室を開放し自主学習とした。また、教員のショート講義も実施したが、学生は直前になるまで真剣に取り組むことができなかった

【改善方策等】

令和8年度の国家試験対策は担任を主として進めていく。個別の成績状況の分析とフォローアップ、苦手な領域の補習講義、ビーンズを活用し学習ノルマの課題、長期休業時の自己学習の徹底を図っていく。

(4) 学修成果 助産学科

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	4
3	退学率の低減が図られているか	4
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【評価に対する根拠（令和7年度の取り組みと状況など）】

1. 就職試験の早期化が進んでいる。新卒の学生は、就職活動の経験がないため志望先についても相談を受けることが増えている。また、少子化による産科病棟の混合化などから、助産師募集数は拡大はしておらず、第一希望に就職できない学生がおり、結果発表後の施設選択、併願検討などで繊細な支援が求められた。しかし、前期には全員が内定を獲得することができた。
2. 入学時に国家試験オリエンテーションを実施し、学生の意識を「全員合格」にセットした。また、学習支援が必要な学生に対しては夏休み前から介入し、伴走型の支援を行った。さらにDXの促進を行ったことで独自の支援システムの活用範囲が拡大し、データ分析の精度と、教員間の意思決定速度の向上につながった。より焦点化した支援が可能となり成果を実感することができた。また伸び悩む学生には、特性を把握しながらタイムリーに接し、教職員がそれぞれの役割を明確に、学生から離れない支援を実施したことで受験者全員の合格を達成した。国家試験終了後には支援に対するアンケートを実施し、何が学生に響いたのかを確認し、次年度の対策に反映させている。
3. 1年間という年限は余裕がなく、学生にとっての学修上の都度の試練がある。それを乗り越えられるよう、教員全員が情報を共有し、対応できる体制を整え、個々の学生の特性を念頭に置きながら志向性を保てるよう心をひとつに取り組んだ。
4. 年2回開催するhome coming day!が定着し、卒業生の動向を把握する機会となっている。また技術試験時の模擬産婦役を卒業生に依頼し、卒後も交流できる場を心掛けている。さらに実習施設に就職した卒業生が増えたことから、卒業生の近況に関する情報は得やすくなっている。
5. 出生数の減少により、就職後の助産師のキャリア形成に変化が生じていることが卒業生の就業状況から伝わってくる。現場の状況をとらえながら、分娩中心という狭義の助産活動にとらわれることなく、助産師の活動について幅広くキャリアを展望できるよう助産学概論などの科目の中で意識づけている。

【課題】

再現性のある国家試験対策

【改善方策等】

全員合格は必達目標のため、さらなる分析力の向上と、対策バリエーションを拡大し、実施評価を継続することで、再現可能な土壌を残していく。

(4) 学修成果 看護学科通信課程

Q	評価項目	評価
1	資格取得率の向上が図られているか	3
2	退学率の低減が図られているか	4
3	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
4	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

【評価に対する根拠（令和7年度の取り組みと状況など）】

1. 今年度の合格率は昨年度より下降したが、全国平均と同等であった。本学科の学生は居住地が広範囲であり、仕事等との両立をしているため、まとまった学習時間を確保することが困難である。そのため、Zoomでのデイゼミ・ナイトゼミやYouTubeを活用して頻出問題をテーマにした動画の作成・配信、公式LINEとGoogleフォームを活用しての定期的な国家試験対策問題の配信等を実施した。成績低迷者には個別指導も行った。
2. 退学者については疾患が原因であり、治療を優先するための退学であった。
3. 卒業生との交流や実習協力施設との情報共有を行い、卒業生や在校生の活躍や評価の把握に努めている。
4. 卒業生との交流や実習協力施設との情報共有を行い、教育活動や国家試験対策等の改善に努めている。

【課題】

- ・ 学生（合格者・不合格者）の傾向の可視化
- ・ 効果的な学習方法の指導

【改善方策等】

- ・ 看護師国家試験合格に向けたデータ分析
- ・ 早期介入に向けたデータの活用
- ・ 学科全体での情報共有や連携の強化

(4) 学修成果 歯科衛生学科

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	3
2	資格取得率の向上が図られているか	3
3	退学率の低減が図られているか	2
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校のエデュケーションの改善に活用されているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【評価に対する根拠（令和7年度の取り組みと状況など）】

1. 就職に関しては、1年次より個々の進路の希望を聞き就職に向けて具体的なイメージを持たせるようにしている。また、学生サポートセンターと連携しキャリアガイダンスを開き、学生の将来への不安を解消することで、就職に対して前向きに考えを持つようにしている。栃木県歯科衛生士会の会長からも話をさせていただき、就職に対して先輩の活躍の話などをしていただいている。しかし、資格取得に自信が持てない事を理由に就職に対して前向きになれない学生がいたので、更なる意識づけが必要と考える。
2. 資格取得率向上に向けて、年次ごとに目標を立て対策をしてきた。特に3年生の下位グループに対して、計画的に学内補講を繰り返し行い、学習への理解を深める環境を作った。業者の模擬試験もより効果が出るように実施し、学生のモチベーションを維持できるよう工夫した。しかし残念ながら不合格者が出てしまった。
3. 退学者に関しては、学生が教員を身近な存在と捉え、相談しやすい環境を作れなかった結果、若干名の退学者があった。今後、悩んでいるときに相談に乗る体制が必要と考える。
4. 実習先での卒業生の活躍は把握しており、概ね良好の評価をいただいている。実習先以外の卒業生に関しては勤務状況や活躍の把握はできていない状況である。
5. 歯科衛生士の就職先は診療所が多いものの、活躍の場が多岐に渡り、多職種と連携することが多くなってきていることを踏まえて、今後は歯科以外の職種の講座やセミナーも入れていく。

【課題】

退学者に関して、進路変更や、学生を取り巻く友人関係が退学理由となったことから、学生一人一人の細かい状況の把握ができていない事が課題である。就職に関して消極的な学生に、資格を取得して働く事の大切さが伝えきれていない。

【改善方策等】

面談を情報収集の場だけではなく、学生に変化があった場合は、時間を別に設けて、「相談に乗る」ことが大切。また、就職に関しては、資格を活かして業務に従事することの大切さを面談を重ねながら伝え、1年次より職場の雰囲気等を授業や実習で伝え、働く意欲を引き出していく。

(5) 学生支援

Q	評価項目	評価
1	進路、就職に関する支援体制は整備されているか	4
2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
6	学生の生活環境への支援は行われているか	4
7	保護者と適切に連携しているか	4
8	卒業生への支援体制はあるか	4
9	社会人ニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
10	高校、高等専修学校等との連携によるキャリア教育、職業教育の取組が行われているか	4

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

【評価に対する根拠（令和7年度の取り組みと状況など）】

- 就職活動支援に必要な専門の人員を配置し、就職支援の年間計画にそって関連する医療系の就職説明会を実施するとともに就職活動に役立つ学科別ガイダンスを早期に実施している。学生一人ひとりの就職希望を聴取し、就職先等の情報提供をおこなうとともに履歴書の書き方指導や模擬面接など丁寧に指導している。また、学生の就職活動の状況を学内で情報共有し連携に努めている。
- 相談室を設置し、専任のカウンセラーを配置している。その他、学生の相談内容の多様化にあわせ、専門の資格をもった職員と学生サポートセンターの職員も相談に応じている。相談室の利用に関して、適宜校内で案内し、相談記録を適切に保存している。
- 日本学生支援機構の奨学金の他に、都道府県の修学資金制度等をはじめとした公的機関の奨学金制度、病院や民間の奨学金制度の紹介・案内及び取次事務を積極的に奨めている。学費納入が困難な学生には分納・延納などで柔軟に対応しているほか、入学金の減免制度、一部学科に関しては社会人経験者の学生向けに教育訓練給付制度も導入している。また、両校とも修学支援制度（給付型奨学金＋授業料等減免）の対象校として認定されており多くの学生が利用している。
- 学校医を選任し、保健室を整備するとともに各号館の窓口に常備薬を置き、AEDを設置している。また、定期健康診断を実施し、有所見者へは適切に対応し、記録を保存している。
- 学生の自治会活動であるスポーツ大会や学校祭の運営にも学校全体で連携を取り支援している。その他、課外活動に対する支援では学生からの要望に応じて対応しており、ボランティアサークル等積極的に活動している。
- 遠隔地から修学する学生への生活環境の支援としては、必要に応じて学校近隣のアパートや駐車場の紹介等を行っている。

7. 保護者会組織である MO 後援会の活動を積極的にサポートするとともに、学科別説明会や懇談会等を実施し学校の教育活動の情報提供・共有を行っている。また、学生の成績不振、心理面等の問題にあたっては保護者と適切に連携をとって解決に努めている。

8. 卒業後、いつでも就業上の悩みや離職・再就職の相談などに応じるといった支援を行っている。また、国家試験に合格することができなかった学生に対しては、模擬試験受験や国試再受験への助成、図書館開放等の体制を取っている。さらに、同窓会を組織し、卒業後の研究活動に対応すべく医学関連ジャーナルおよび電子書籍などの医療情報を提供。また、卒業生と在校生が交流する機会も設けている。

9. 社会人経験者および社会人学生の学修支援、履修制度の整備として、社会人経験者の入学に際し、入学前の履修に関する取扱いを学則で定め、適切に運用している。また、経済的な支援環境としては一部学科に限られるが、教育訓練給付金の指定を受けており、給付条件に当てはまる社会人学生が利用できるようになってきている。教育的な支援としては、看護通信において授業の補講、国試対策としてナイトゼミをオンラインで定期的実施し、多くの学生が受講している。

10. 栃木県専修学校各種学校連合会主催の進路連絡協議会や研修会等に参加し、高校の教員と情報を共有し、各学科と連携をとりながら学生指導にあたっている。また、近年は早期からのキャリア教育に力を入れており地域の中学校等に積極的に講師として教員を派遣するとともに学校の実習施設等を活用した職場体験の受け入れも積極的に行っている。

【課題】

1. 保護者会組織である MO 後援会において、保護者への情報提供等をコストや事務の効率化、利便性の面で紙から情報ツールを利用した発信に切り替えた。未登録者の登録と定期的な情報発信。
2. 就職活動支援において求人票の管理システムを導入、その活用方法。

【改善方策等】

1. 継続して情報ツールへの未登録者へ登録の働きかけを実施、学校の教育活動に関する情報提供を適切に行い情報ツールの活用を推進していく。
2. 業務の効率化と利用促進のため、活用法の検討、カスタマイズしていく。

(6) 教育環境

Q	評価項目	評価
1	施設、設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
3	防災に対する体制は整備されているか	4
4	学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	4

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

【評価に対する根拠（令和7年度の取り組みと状況など）】

1. 施設・設備は、現行の教育に対応できるものであり、専門教育に必要な設備・機器は、劣化への対応は勿論の事、社会ニーズや教育内容、教育方法の変化、発展に合わせて更新、改善できるように管理している。

令和7年度は、3号館3階のエアコン入替、3号館ガス給湯器の交換、2号館ベランダの塗装（雨漏り対策）、学校敷地内の樹木剪定や除草等を外部業者に委託した。

2. 実習先は、法令の要件を満たし、学科の教育目標を達成するために適した所を第一に考慮し、学生の学習の場として相応しいかどうかを十分に検討して選定し、依頼している。

実習中は、専任教員と実習指導担当教員を実習先に配置、もしくは定期的に訪問し、学生の状況を把握すると共に実習指導者とのコミュニケーションを図り、連携して学生指導を行っている。

昨年度から理学療法学科の定員を増やしたことにより、今後実習施設を増やしていく予定。

3. 防災訓練は、法令及び消防計画に基づき毎年1回実施し、消火器・非常ベル等の消防設備は、法令に基づき年に2回の点検を実施している。

なお、毎年教職員のみで避難訓練を実施。いかに学生を早く安全に誘導できるかの確認を行った。

また、学生には避難経路の映像を見せしている。

4. 危機管理マニュアルの徹底と、学生の安全を守る為、校内に関係者以外立ち入り禁止の看板等を設置。また建屋出入口に電子施錠を設け関係者以外が入館できない様にしている。

【課題】

多くの施設が長期間にわたり使用されていることから、立地や利用状況に応じた改修・補修が求められている。そのため、各施設の現状を適切に把握しながら、短期・中期・長期の段階ごとに計画的な対応を進めていく必要がある。

【改善方策等】

安全性や機能維持の観点から、緊急性の高い箇所については早期の改修・補修を優先的に実施していく。また、将来的に中長期的な対応が必要となる箇所については、施設の利用状況や改修費用とのバランスを踏まえながら、計画的かつ効率的に進めていく。

(7) 学生の受入れ募集

Q	評価項目	評価
1	高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	4
2	学生募集活動は、適切かつ効果的に行われているか	3
3	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
4	学納金は妥当なものとなっているか	4
5	入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	4
6	入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【評価に対する根拠（令和7年度の取り組みと状況など）】

1. 高等学校内ガイダンスに積極的に参加し、希望者に対し教育活動を行っている。高校訪問に関しては年4回（5月、7月、9月、12月）実施している。また、入試後や問い合わせがあった際には、臨時訪問も実施し、入試情報等の情報提供に取り組んでいる。
2. 栃木県専修学校各種学校連合会のルールに基づき、願書受付時期の設定や広報活動を行っている。入試区分としてはAO入試、推薦入試、一般入試、社会人入試を実施している。SNSでは入試情報の他、学校行事の様子や学科の魅力発信を行っている。また、オープンキャンパス開催日に参加できない方に向けて個別相談会を実施し、柔軟に対応している。
3. 学校案内及びホームページ等の記載にあたっては、真実を明瞭、公正に記載している。教育成果についても情報公開ページの中で正確に伝えている。また、オープンキャンパス、高等学校内ガイダンス等での募集活動においても、カリキュラム、就職状況等、正確に情報提供を行っている。
4. 全日制課程、通信制課程各学科の学納金は社会情勢や他校の状況等を踏まえて毎年検討を重ねており妥当なものであると考えている。また、金額や活用できる経済的支援等は募集要項、ホームページに明示している。
5. 入学選考基準については学科毎に設定し運用している。入試判定会議では、理事長、校長、統括部長、事務局長、学科長が出席し、それぞれの視点から判定を行い、可否を決定している。
6. AO入試エントリー開始以降、エントリーや出願があった際には随時報告を行い、現在の募集状況の周知を行っている。運営会議では年度初めに定めた目標値と比較した月毎のデータを提示している。

【課題】

2. オープンキャンパスの参加者数は全日制5学科のうち3学科が前年度より上回り、オープンキャンパスからの出願率も4学科は前年度より大幅上昇または横ばいとなったが、1学科については、オープンキャンパスからの出願率が減少してしまった。

【改善方策等】

2. オープンキャンパスからの出願率が減少してしまった学科の出願率を上昇させる方策として、前年までは年間の約半数を他学科との合同開催としていた形式を、すべての回において学科別で開催して当該学科の特長である少人数制をよりアピールできる形式とし、その少人数制を好意的に捉えている参加者に対し、今まで以上に在校生や教員とのふれあいを増やし満足度の高いオープンキャンパスを展開することで、出願率の向上へと繋げる。

(8) 財務

Q	評 価 項 目	評価
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
2	予算、収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
3	財務について会計監査が適正に行われているか	4
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

【評価に対する根拠（令和 7 年度の取り組みと状況など）】

1. 予算に合わせた支出をおこない、運営を安定させる努力をしている。
2. 予算及び収支計画は妥当に執行し状況により補正措置を講じている。
3. 定期的な外部監査をおこない、状況によって是正措置を講じている。
4. 財務情報をホームページにて公開している。

【課題】

学生数が年度によって増減する為、中長期的に収支が不安定にならぬよう管理を徹底し今後の対策を法人全体で検討する。

【改善方策等】

学生の一定数確保による学納金等などの安定収入
可能な限りの経費削減

(9) 法令等の遵守

Q	評 価 項 目	評価
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
4	自己評価結果を公開しているか	4

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

【評価に対する根拠（令和 7 年度の取り組みと状況など）】

1. 専修学校設置基準及び教育に関わる各種の法令を遵守している。また、各学科とも厚生労働省の指定を受けた養成所であることから指定規則並びに指導ガイドラインを遵守した適正な運営である。
2. 個人情報については「個人情報保護基本方針」・「個人情報の保護に関する規則」を定めた対策を取っている。
3. 年度初めに前年度の自己評価を学科・部署ごとに行い、現状や取り組むべき課題等を報告書としてまとめた上で、その年の重点課題・運営方針と併せて教育活動等の学校運営の改善に努めている。
4. 自己評価及び学校関係者評価結果の報告書をはじめとした学校の諸情報は、ホームページの「情報公開」にて公開している。

【課題】

- ・令和 7 年 12 月に看護系 3 学科（看護学科、助産学科、看護学科通信課程）については、県による指導調査の実施となった。特に問題はなく終了した。
- ・令和 8 年 9 月に歯科衛生学科については県による指導調査が実施される予定となっている。指定規則、運用ガイドラインを再確認し適正に運用していることを確認する必要がある。

【改善方策等】

- ・引き続き、各種法令、規則、ガイドライン等のコンプライアンスを徹底する。

(10) 社会貢献・地域貢献

Q	評価項目	評価
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献、地域貢献を行っているか	4
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
3	地域に対する公開講座、教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【評価に対する根拠（令和7年度の取り組みと状況など）】

1. 自治体からの依頼による学校施設の貸与および関係協会・団体研修への学校施設・機器備品の貸与を積極的に実施するなどの社会貢献・地域貢献を行っている。また、地域の中学校の職場体験にも学校の教育資源を提供している。さらに、社会問題に対する取り組みとして、節電対策としてのクールビズやウォームビズを導入し、ポスターを掲示して学生・教職員に対し注意喚起を促している。
2. 栃木県障害者スポーツ大会やリレーフォーライフなどのボランティア活動や義援金活動を積極的に支援している。
3. ヘルスコミュニケーション委員会を設置し地域の公開講座への講師派遣や小中学校でのキャリア教育への講師派遣等を積極的に実施している。また、専門実践教育訓練の指定認定を受けるなど積極的に制度利用者を受け入れている。

【課題】

学生ボランティア活動に対する支援は学生の学業への影響に配慮し、支障がない範囲で学校として積極的に奨励しているが、近年の活動は限定的なものにとどまっている。

【改善方策等】

学生の社会性を育む活動としてボランティア活動は意義のある活動として位置づけるべきであり、地域や身近な活動など、積極的に情報提供を行い、学生の活動状況は常に把握する必要がある。引続き、ボランティア活動を組織的に支援するとともに活動実績を把握、評価し結果を教職員で共有していく。